

〔畜産農家の声〕

フォーベルネット会員

津山市 福井 節子
(美作県民局畜産第一班)

今回は、混住化が進む津山市街地の中で和牛を大切に飼われている福井節子さんです。

私の家では、現在、黒毛和種の母牛を20頭飼育しています。私は子牛の管理を担当しています。和牛は先代から飼われていたのですが、頭数は2頭だったと聞いています。主人の代になって徐々に頭数を増やし現在の頭数になりました。

私は家事に追われ、牛飼いの仕事になかなか携わる事も少なかったのですが、6年ほど前から哺育を担当することとなりました。子牛が生まれぎゅっと抱きしめた時の可愛さと言ったらありません。肥育農家の皆様に喜んでもらうためには、人を恐れない落ち着いた子牛を育てることが一番だと考えてやっています。そのために生まれてから2ヶ月になるまでは、毎日抱きしめて、お話をするようにしています。このためか道を通っている高校生などが驚いて立ち止まる事もあり、ちょっと恥ずかしい思いをした事もあります。それでも大きな声で鳴く牛たちと話しているのでついつい声も大きくなってしまっているので、これもしかたなく、今では良い事なのかなとも思います。

津山市街地に近いこの地区では牛を飼っているのも私の家だけとなりました。そんな中でも粗飼料は自給したいと考え、ソルゴーやイタリアンを作らせて頂く田んぼをお借りしたいと地主の方にお話ししたら快く貸して頂き、必要な粗飼料のほとんどを今は作ることができています。ありがたいことです。

良い子牛を生ますためには雌牛の血統に合う種雄牛を選ぶことが大切であると聞きました。岡山県は日本で最古の蔓牛を作った偉大な歴史を持つ県であることも知りました。星の数ほどいる種雄牛の中から相性の良い種雄牛を決めることは簡単ではありません。この種雄牛についても、熱心に

アドバイスいただける方がいらっしゃる大変心強く感じています。平成19年鳥取で開催された全国和牛能力共進会で岡山県は全国5位の素晴らしい成績を上げ、津山地区から出品された牛群も、花の第7区と言われる総合評価区で全国4位に輝かれたと聞いています。先人の方が築き上げてこられた岡山和牛を、微力ではありますが精一杯大切に育てていきたいと考えています。

また、抱きしめて育てた子牛たちを肥育農家に渡す子牛市場には毎回参加するようにしています。この子牛たちが元気で大きくなるようにと祈りながらセリを見つめています。この子牛市場ではフォーベルネットでお知り合いになった方々とお話できることも楽しみです。いろいろなお話を熱心に聞かして頂く中で頑張らなくてはいけない気持ちになってきます。お気に入りの「たまちゃん」が年末には元気な子を産んでくれると思います。一生懸命育てて皆さんに「たまちゃん」の子供を紹介するのが楽しみです。

<編集後記>

「たまちゃんは……たまちゃんが……」と目を輝かせて語られる奥様の傍らで、「今は我が家で授精する種雄牛の決定権は家内にあるのですよ。」と嬉しそうに語られた御主人の言葉に、岡山和牛を支えてこられた心強い畜産農家の姿を見ることができ嬉しくなりました。

なお、この「たまちゃん」は鳥取全共で全国3位となった岡山県を代表する雌系統牛の流れを汲むもので、種牛性・産肉性とも大変期待できる若雌牛です。「たまちゃん」が素晴らしい岡山和牛になる事と可愛い子供を見せて頂くことが、今から楽しみです。

(美作県民局畜産第一班)